



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報 THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 松尾 博之 ■幹事■ 齋藤 良堯 ■会報委員長■
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2022-23年度

第2783回

2022年8月26日(金) 点鐘12時30分 (曇り)

- ◆ロータリーソング『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

●本日のゲストスピーカー
 総合警備保障(株)千葉支社/音 泰広様、坂倉 英梨様

◆会長挨拶及び報告 大塚 裕正直前会長

こんにちは。今日は松尾会長が急遽欠席ということで、久し振りにここへ立ちました。

本日は、音さんと坂倉さんの卓話ということで、昨年度のライラセミナーの参加報告をしてもらいます。楽しみにしております。

皆さん、今後も体調管理を十分にいただき、気を付けてお過ごし下さい。

◆ロータリー米山記念奨学会より感謝状伝達

第4回米山功労者

鈴木 美津江会員



◆委員会報告

《出席委員会より》 出井清委員長

- ・2021-22 下期分皆出席者のご紹介
- ・地区大会へのご参加をお願い致します。

10月8日(日)09:30 点鐘 (アパホテル東京ベイ幕張)

《廻辰一郎ガバナー補佐幹事より》

10月28日(金)に鈴木ガバナー補佐主催の第4グループ親睦ゴルフ大会が開催されます。

皆様からの景品提供を募っております。宜しくお願い致します。

《社会奉仕委員会より》 伊藤和夫委員長

稲刈り作業のご案内

9月4日(日)10時集合

◆幹事報告 齋藤 良堯幹事

世界ポリオデー啓蒙イベント

10月23日(日)12時30分集合/成田国際空港第2ターミナル前中央広場

◆出席報告 (会員数 47名)

出席者数	欠席者数	ビジター	8/12修正出席率
27名	20名	2名	休会のため次回にて

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月		三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	9/20	センシティブワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	9/13	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	9/21	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		オークラ千葉ホテル
千葉中央RC	木		三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木		京成ホテルミラマーレ

◆ニコニコボックス報告

●松尾 博之会長、齋藤 良堯幹事

本日、松尾会長が所用により、急遽欠席することになりました。お詫び申し上げます。音泰広様、坂倉英梨様、お話しを楽しみにしておりましたが、拝聴出来なくて残念です。卓話を宜しくお願い申し上げます。

●鈴木 美津江会員

皆様こんにちは。先ほど、幹事さんより報告がありました地区行事・世界ポリオデー啓蒙イベントのご参加、宜しくお願い致します。

本日のニコニコボックス	4,000円	累計	108,500円
金の箱	140円	累計	716円

本日の卓話

『 RYLAセミナー参加報告 』

総合警備保障(株)千葉支社
音 泰広様 坂倉 英梨様

これから 2790 地区 第 45 回 RYLA セミナーの参加報告を発表させていただきます。



✳️ 初めに RYLA セミナーの目的をご紹介します。

RYLA(ライラ)ロータリー青年指導者養成プログラムとは、ロータリーの1つのプログラムであり、14歳から30歳の将来指導者になる資質を持った若者たちに、スキルと人格を養いながら、奉仕・道徳・平和の価値観を学ぶ機会を提供することを目的とされた活動となっております。

そして、今年度のテーマは、コロナ禍での危機管理ということで基調講演・避難所運営ゲームを通じて「今、できないことではなく今だからできることを見つけて一つでもしていくこと」を目的に開催されました。

✳️ セミナーの流れ

開講式にて点鐘等が行われ、ガバナー・梶原等様をはじめ、青少年奉仕統括委員長・嘉規洋様、RYLA 委員長・鳴海寿裕様のご挨拶をいただきました。

そして、基調講演 ① 気象予報士・防災士である國本末華様による「これからの防災のあり方 自然災害にどう備えるか」についてご講演をいただき、つづいて、基調講演②では鋸南ロータリークラブ2021-22年度会長 堀田了誓様に「台風激甚災害被災地となった鋸南町での災害支援活動の2年間」について講演していただきました。

その後、昼食を挟みまして、ローターアクトの皆様のご協力による HUG 避難所運営ゲームを開催していただきました。

閉会式では、RYLA 委員長・鳴海寿裕様にご挨拶いただき、アワードを授与していただきました。

基調講演①では、現在、TBS「Nスタ」にご出演されておられます、気象予報士/防災士の國本末華様に講演いただ

き、「これからの防災のあり方 自然災害にどう備えるか」というテーマでお話しいただきました。

お話の中で印象に残った点を抜粋させていただきご紹介させていただきます。

・天気予報が当たる確率について

明日の天気予報が当たる確率は約83%で明後日の天気予報が当たる確率は約70%だそうです。

また、週間天気予報が更新されるタイミングは午前11時頃のため、お昼のニュースで最新の週間天気予報がわかるそうです。

・近年の気象災害

近年、高温が災害レベルになってきており、35度以上の猛暑日が、過去30年間で3倍になっているようです。

また、大雨の回数も全国的に10年で1.5倍に増えてきているとのこと。

局地的大雨の事例として、

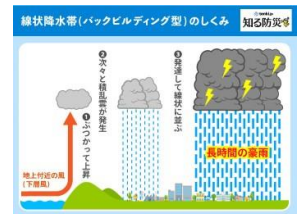
2020年6月に埼玉県 熊谷市にて10分間で50mmを記録した豪雨がありました。

1時間50mmの降水量でマンホールがあふれて道路が冠水してしまいますので、この時は短時間に莫大な降水量を記録しました。

また、1時間で降った降水量の記録は、1999年10月に千葉県香取市にて153mmの降水量の記録が観測史上最大だそうです。

近年の記録的な豪雨災害は線状降水帯という気象現象が関わる場合がみられます。線状降水帯とは、同じ場所に次々と積乱雲が発生し帯のように連なる事により局所的な豪雨を長時間引き起こす気象現象です。

線状降水帯



引用：NOの広場：線状降水帯が発生するメカニズム <https://nhir>

大きな被害がでた2015年、関東東北豪雨 鬼怒川の氾濫も線状降水帯による被害でした。

また、2020年6月より気象庁によって線状降水帯の予測情報を出すようになりましたが、予想は難しく、予測精度は低いです。

そのため、國本様は、近年の猛暑、大雨等災害に対して、自分の命は自分で守るという基本的な考えを持って、命を守る3Kをお話してくださいました。

【命を守る3K】

①考える：これは被害をイメージすることで危機感を持つことです。

②気づく：普段の違いや周囲の様子に気を配り、変化にいち早く気づくことが重要です。

③行動：災害に巻き込まれる前に避難する行動をとる。災害が起きると道路の冠水など避難行動が遅れてしまうため、災害に巻き込まれる前に避難することが安全につながります。

水害に日ごろから備えるために

①ハザードマップなど確認し避難場所・経路の確認をす

- る。
- ②非難する際の非常用・持ち出し品の確認と準備をしておく。
- ③災害時は人同士の助け合いが重要です。
- 近所の方と防災の話をする事で防災コミュニケーションを高めることも重要です。

國本様が実際に被災した方の話から分かった事として、備える行動と避難行動は別であるということをおっしゃっていました。備えることはできても、避難行動の一步が踏み出せないことがある。いかに避難行動の一步を踏み出せるようにできるかが、気象予報士としての課題だとおっしゃっていました。

また、役立つ情報として、「キキクル」という web サイトを紹介いただきました。

気象庁のホームページよりリアルタイムで洪水や土砂、浸水の危険度情報が分かるようになっており、災害時に正確な情報を得るために活用できるとのことです。

國本未華様の基調講演①を受講して

普段見ている天気予報は、生活情報でもあるが、防災情報にもなっていることを改めて学び、災害を一人一人が自分事と捉えて生活していくことが大切だと改めて感じました。そして、自分の命は自分で守らなければならないため、平時から災害時のことを想定し、どのような行動が必要なのか備えておくことが重要だと感じました。

猛暑やゲリラ豪雨など今の時期に身近な災害から台風や地震など大きな災害まで様々な自然現象に安全を脅かされる中で、被害を少しでも抑えるために気象予報士の方々が日々努められていることに感謝すると同時に、一人一人が気象災害情報に関心を持つことで防災の意識を高め、災害情報を仕入れる訓練をしておくことで、いざというときに行動できる準備をすることが重要だと感じました。

基調講演②では、鋸南ロータリークラブ2021-22年度会長 堀田了誓様に「台風激甚災害被災地となった鋸南町での災害支援活動の2年間」について講演していただきました。

堀田様は、千葉県鋸南町ご出身で日本料理店と介護事業所を経営されおり、令和元年房総半島台風から、災害支援団体ロータリークラブ有志ボランティア団体(鋸南RCV)と鋸南町復興アクセラレーションを設立されました。

<令和元年9月9日、台風15号被害状況>

鋸南町・局所的激甚災害認定

被害総額 505 億円 死者数 9 人 負傷者 160 人

被災地では、停電が起こっていて長い所では2週間停電になっていたとのこと。また、9月でしたが猛暑33度で食料もない状況。助けも呼べず、安否確認もできない状況。情報が入らず、何が起きているのかわからない状態で不安が増すばかり。

直接台風に逃れても熱中症や屋根を直すために屋根に乗ったところ落ちてしまった等で亡くなった人、災害関連死する方もいました。

災害から浮き彫りになった支援から取り残された人がい

る事実として、災害を受けて、地域での孤立、関わりを断ってしまっている。悩み苦しみを知られたくない・弱みを見せられない。他人には自分の辛さがわからない。

厳しい環境や境遇に慣れてしまっている(諦めがついている)障がい、高齢化により支援が使えることがわからない。

このような理由から支援から取り残されている人たちがいることが浮き彫りになりました。

そこで、支援の一環として台風15号、19号の屋根被害により、曇のない暮らしを強いられている人たちが大勢いたため、被災者の方に曇をプレゼントするというプロジェクトをつくり復興支援をされていました。

しかし、台風による風災で屋根が飛ばされて瓦がない状態で雨漏りが起きている現状がありました。

そこで、天井のカビによる健康被害が深刻、従来の拭き取る手段では根本的解決に至らなく、天井が崩落する不安が募る。

この時の教訓として災害支援にはその時々のできることをやるしかないとおっしゃいました。

カビ被害に悩まされていた中、2011年東日本大震災で支援活動を行っていた キッスインハート東北代表の方より連絡をいただき、カビ除去の法律制度、行政支援の知識と資機材を提供していただきました。

代表の方は、「支援は作業ではない。結果、救えなければ意味がない」とおっしゃり、被災者の心を取り戻すそのための場所やきっかけを作ることが重要であると考えます。

講演を受け、被災地の映像やボランティアしている活動を見て、台風の恐ろしさをより感じました。また、本当の苦しさ、辛さは体験した人にしかわからないがそのことをわかろうとする気持ち、行動が大切だと気づきました。

また、鋸南町の台風による被災は想像を絶しており、そういった実際の現場ではニュースでは伝わらない問題があり、支援を受けられない人がいる事を知りました。また、ボランティアに集まった人達が人材として各々(おのおの)の能力が必要とされ協力して被災地を救う姿を見て、もし、自分が災害救助に行くことになった際には何に貢献できるのかを考えるきっかけになりました。

支援は作業ではない。結果的に救えなければ意味がないという言葉に感路を受け、その場しのぎではなく、台風シーズンが来るたびに再び災害を恐れることのないよう、少しでも不安を減らせるようにすることが本当の災害支援だと気づきました。

昼食を食べた後、参加の皆様とアイスブレイクを行いました。アイスブレイクではローターアクトの皆様により、じゃんけん列車を行い、少し恥ずかしがりながらも相手の肩に手を置き列車を作り、自然と会話も増え、緊張をほぐすことが出来ました。

アイスブレイク (じゃんけん列車)



そして、避難所運営ゲーム(ハング)を行いました。避難所で起こる様々な出来事を体験するゲームで、具体的には、ローターアクトの皆様が避難者の情報等が書き込まれたカードや何らかの事態発生を知らせるカードを読み上げ、私たちはその情報に基づき、避難者カードの場合は配置を決め、その場にカードを置き、事態発生への対応も行います。

避難者それぞれが抱える事情等が書かれたカードを避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こりえる様々な出来事にどう対応していくのか考えていくこととなります。

そして、ゲーム終了後、避難者の配置や事態対応について話し合い、よりよい避難所運営方法を見つけていきます。

目的として、

避難所の運営に関するノウハウを養うための体験型のグループによるシュミレーションを行い、自らが考えて動けることを目指します。

Hinanzyo Unei Game の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味を含んでいます。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージを重ねて名付けられました。

はじめに、グループメンバーとの自己紹介を行いました。高校生、大学生、社会人等、年齢も職種も色々な方が参加されていたため、より実践に近い方と運営をすることができました。

設定としまして、小学校が避難所の設定でした。そして、避難者が避難所に避難してくる前に、事前に配られていた小学校の図面を見て、人が出入りする通路の導線確認と利用可能な教室等、施設の確認を行いました。

そして、多くの避難者が避難してくる中で、一人一人に大小様々な要望があり、人数が増えるに連れ、それをすべて叶えることは難しい状況になりました。

その際に要望の可否を決める取捨選択の決断力と柔軟な発想で臨機応変な対応ができる、応用力などが求められ、短い時間で受け入れを行うことに苦戦しました

また、災害が発生して0日目、1日目で事前にメンバー同士で役割分担をしていなかったことで、全員で同じような動きをしてしまったため、次々とやって来る避難者の対応や要望にスムーズに対応ができず、カードが溜まってしまいました。しかし、災害発生から2日目以降は、メンバー同士で話し合い、それぞれの役割を分担したことでスムーズに対応することができました。

災害発生から時間が経過するごとに、設備故障、報道陣が取材、自衛隊が支援にきたりと、避難者以外の対応も必要でした。そして、避難してくる人の中には、持病を持っていたり、怪我をしてしまった人、外国人、妊産婦、障がい者、高齢者等配慮が必要な人もいるため、トイレが近い配置場所、階段を使わない1階へ配置をしたり、医療設備がある場所に配置したりする必要がありました。そのような方のサポートをしていくためにも避難者の中で医療関係者等協力者を集め、配慮が必要な人の場所に配置することで、よりよい避難所運営が可能だと感じました。

傷病者や妊産婦等配慮が必要な人の対応を考え、かつ、公平に避難者の配置をすることが難しく感じました。次々と避難者が訪れ、様々な要望もあり対応していくのが苦戦しました。実際に、避難所を運営する際はもっと多くの避難者が訪れ、トラブルも起こってくると思うので、より判断能力が必要だと感じました。

また、避難者をどのように配置するのか、どこに運営、支援物資等置くのかなど、運営者同士で役割、運営場所を事前に決めておくことや、初対面の状況でも率先して行動する力、リーダーシップが必要だと学びました。

そのような状況になった際、自ら臨機応変に行動し、他者と協力しあえるよう、日頃から問題解決のスキルやコミュニケーション能力を磨いていきたいと思いました。

初対面の方と協力しあって運営していくという難しさと同時に、自分には何ができるのか、どのように行動すれば良いのか考える機会をつくることができました。

問題に直面した際に考える時間があればある程度納得した結論が出せるが、このゲームでは考える時間は非常に短く、事前に準備もできないため、瞬発的な判断と臨機応変な対応を連続して求められ、難しかったです。

しかし、冷静さと協力や分担、人の心に寄り添う気持ちなど被災したときに重要な意識を考えさせられる貴重な体験ができて楽しめました。

今回のような学ぶ機会を与えていただきました、加藤支社長をはじめ、皆様に感謝申し上げます。

加藤 隆章会員より



9月1日付で異動となり、本日の例会参加が最後となりました。大変お世話になりました。

千葉南ロータリークラブに所属させていただいて、考えたことがあります。

ひとつは、このライラセミナーの参加と報告をしっかりとやるということ。二つ目は、何らかの社会奉仕を実践するということ。伊藤会員が稲刈りの後、千葉市児童相談所へ持って行かれるとのことで、斎藤昌雄会員が、「子は国の宝」だということを司会をされながら力強く仰っていたことが、ずーっと心の中に残っていて何かしようと思っていて、歴史漫画を持っていきまして、少し実践出来て良かったなと思っています。

三つめは、例会で誰よりも大きな拍手をするということを中心掛けてきました。(今井会員が拍手のライバルでした…)

第2784回例会

日時⇒ 2022年9月2日(金) 点鐘12:30

会員卓話⇒ 高橋 豊会員